

1 策定の背景と目的

- 近年、世界的に地球温暖化に起因すると考えられる異常気象やそれに伴う災害が頻発している。
- 国は2020年10月に2050年脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した（2030年-46%削減(2013年比)・2050年実質ゼロ）。
- 町も2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指すことを表明している。ただし、区域の自然的・社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の量の削減等を行うための施策に関する事項を定める「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」が未策定であり、まずは、2050年の脱炭素に向けた町の基本的な方向性を決定する必要がある。

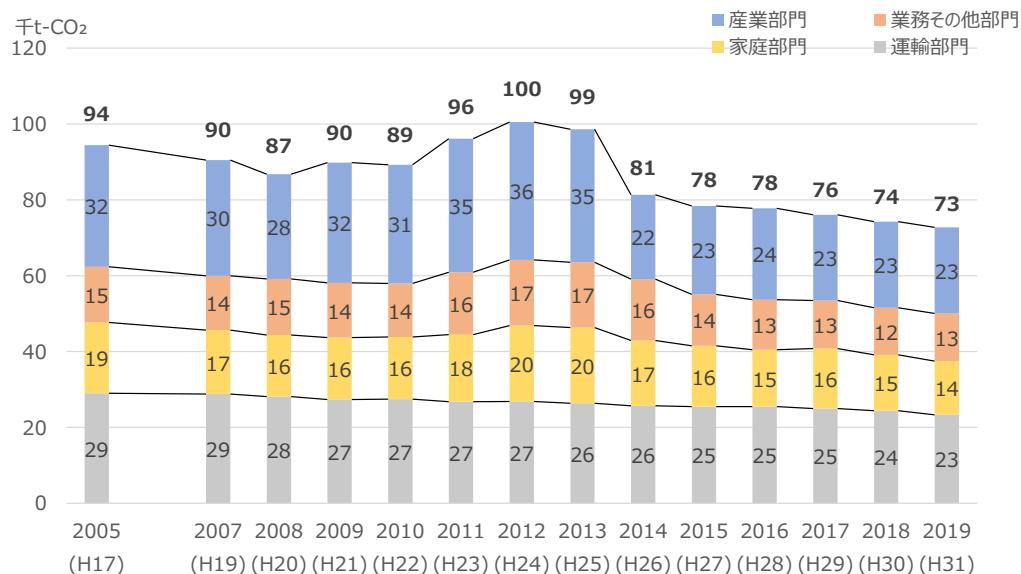
「津南町ゼロカーボン戦略」

⇒本戦略は脱炭素に関わる基本的な方向性として下記の策定を目的としています。

- ①脱炭素社会を見据えた再生可能エネルギーの導入目標
- ②脱炭素社会を実現するために必要な政策及び指標の検討並びに重要な施策に関する構想

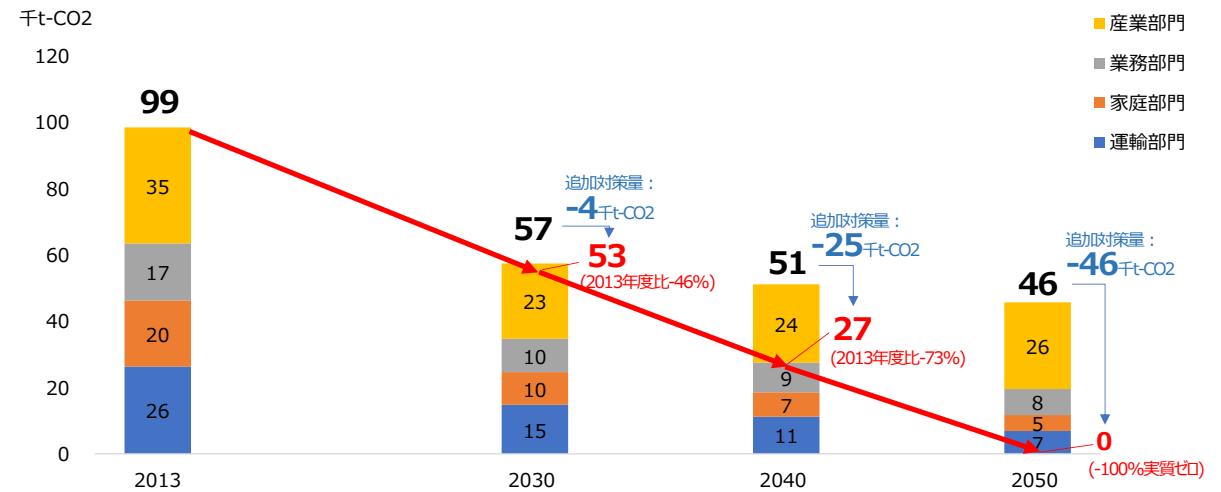
2 津南町の温室効果ガス排出の状況

- 温室効果ガス排出量は、2019年度で73千t-CO2/年であり、2013年度から約27%削減となっており、減少傾向が続いている。
- 温室効果ガスの内訳は運輸部門が32%(うち自動車31%)と最も多く、次いで産業部門が31%(うち製造業19%)、家庭部門が20%、業務その他部門が17%となっている。



3 脱炭素シナリオと対策必要量の推計

- 2050年にゼロカーボンを達成するためには、二酸化炭素の排出量を、2030年は53千t-CO2（基準年比-46%）、2040年は27千t-CO2（基準年比-73%）、2050年は0千t-CO2（排出ゼロ）とすることが必要と考えられる。
- 二酸化炭素排出量削減の追加的対策として、2030年は-4千t-CO2、2040年は-25千t-CO2、2050年は-46千t-CO2の再エネ・省エネ・森林吸収、また、域外からの再エネの購入といった取組が必要であるが、地域内には太陽光、地中熱の他、多様な再エネ資源があるため、これらを活用して対策することが重要である。



4 ゼロカーボン達成に向けた目標値

- 2050年ゼロカーボン達成に向けた、ターゲット年ごとの目標値は下図に示す通りである。
- これらの目標達成に向けた2050年に目指すべき姿、省エネ・再エネに関わる戦略について以降に示す。

| 目標 | 目標値の選定理由 | ターゲット年と目標値 | | | モニタリング手法 |
|----------------------|--|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------|
| | | 2030 | 2040 | 2050 | |
| 温室効果ガス排出量 (千t-CO2/年) | ・ゼロカーボンに向けた全体目標であり、国や他自治体との比較が可能な指標であるため | 53 千t-CO2 (基準年比-46%) | 27 千t-CO2 (基準年比-73%) | 0 千t-CO2 (実質ゼロ) | ・環境省自治体排出カルテの公表値をモニタリング |
| 再エネ電気導入量 (MWh/年) | ・ゼロカーボンに直接的な効果があり、また、全部門へ寄与する指標であるため | 1,732 MWh/年 (6TJ/年) | 18,115 MWh/年 (65TJ/年) | 35,220 MWh/年 (127TJ/年) | ・経産省：FIT導入量の公表値をモニタリング |

5 ゼロカーボン達成に向けた目指すべき姿

- 2050年の目指すべき姿の実現に向けた、3つの基本戦略と重点戦略（ゼロカーボン達成に向けて町全体が進めていく取組の方向性）を設定した。

目指すべき姿 豊かな農林業資源に基づく、自然エネルギーの有効活用と住みよい暮らしを実現する「ゼロカーボンの町“津南”」

基本戦略

- 徹底した省エネの実践**
徹底した省エネの実践：設備導入から行動変革に至るまで徹底的に省エネ施策を実践する
- 再生可能エネルギーや蓄エネルギーの導入**
蓄電池や蓄熱槽を用いることで、再生エネをより効果的に使用する
- 再生可能エネルギーの積極利用**
再生エネを次世代自動車や災害時のエネルギー供給などに積極的に利用する

重点戦略

| | |
|--------------------------|---|
| 1 小水力発電導入促進戦略 | 小水力発電整備、農業用水路を活用した小水力発電の実証 |
| 2 太陽光発電導入促進戦略 | 豪雪地域に対応した太陽光発電システムの実証 |
| 3 バイオマス利活用導入促進戦略 | 木質系バイオマスや農業残渣等の利活用体制の構築 |
| 4 公共施設脱炭素化戦略 | 再生エネ・省エネ設備導入、公共施設の防災力強化、クールシェア・ウォームシェア |
| 5 脱炭素農業戦略 | スマート農業の導入、農業機械の電動化、雪氷熱利用（雪室） |
| 6 脱炭素での地域ブランド戦略 | ニュー・グリーンピア津南でのゼロカーボンツーリズム |
| 7 次世代自動車導入戦略 | EV・FCV等の導入、V2Hシステム、EVステーション設置 |
| 8 ZEH戦略 | 住宅の省エネ・再生エネ導入、県と連携したZEHの促進 |
| 9 “ゼロカーボン”による町の活性化戦略 | 再生可能エネルギーの電力小売事業者の発掘・運営、バイナリー発電の検討 |
| 10 町民・事業者のライフスタイルイノベーション | 町民・事業者への普及啓発活動・取組支援、次世代への教育、ポイント・地域通貨との交換制度 |

現在の主な取組

◆小水力発電所



◆スマート農業



◆雪室（農作物の貯蔵）



各主体の役割・取組項目



| 主体 | 基本戦略 | 取組項目 |
|------------|---------------------|--|
| 町民に期待する行動 | 徹底した省エネの実践 | ①省エネ行動の実施 ②エネルギー消費量の把握 ③クールシェア・ウォームシェアへの参加 ④住宅の高気密高断熱化の選択 ⑤HEMS等によるエネルギー利用の効率化 ⑥高効率で省エネ効果の高い設備の導入 |
| | 再生可能エネルギーや蓄エネルギーの導入 | ⑦再生可能エネルギーや蓄電池等の導入 |
| | 再生可能エネルギーの積極利用 | ⑧省エネ・再生エネイベントへの参加や積極的な情報収集 ⑨次世代自動車への切り替え ⑩V2H（Vehicle to Home）システムの導入 ⑪再生エネ電力の購入 |
| 事業者に期待する行動 | 徹底した省エネの実践 | ①省エネ等の取組成果の情報共有 ②エネルギー消費量削減に向けた計画的な取組の実施 ③高効率で省エネ効果の高い設備の導入 ④BEMS・FEMSによるエネルギー利用の効率化 |
| | 再生可能エネルギーや蓄エネルギーの導入 | ⑤再生可能エネルギーや蓄電池等の導入 ⑥再生可能エネルギーや蓄エネルギーによる効果の情報共有 ⑦地域への再生エネ電力供給（再生エネ事業者） |
| | 再生可能エネルギーの積極利用 | ⑧省エネ・再生エネイベントへの参加や積極的な情報収集 ⑨次世代自動車への切り替え ⑩充電スタンドの導入 ⑪再生エネ電力の購入 |
| 行政が目指す姿 | 徹底した省エネの実践 | ①省エネ行動の実施 ②クールシェア・ウォームシェアスポットの提供および情報発信 ③高効率で省エネ効果の高い設備導入および施設の更新 ④省エネ技術の情報提供・導入効果の率先発信 |
| | 再生可能エネルギーや蓄エネルギーの導入 | ⑤再生可能エネルギーや蓄電池等の導入 ⑥太陽光発電システムの普及に向けた取組を実施 ⑦再生可能エネルギーの導入支援・情報提供 ⑧公共用地を活用した再生可能エネルギー事業の誘致 |
| | 再生可能エネルギーの積極利用 | ⑨省エネ・再生エネイベントへの積極的な開催および情報提供 ⑩次世代自動車への切り替え ⑪充電スタンドの導入 |